

快

1 G (會澤、小澤、五来、志賀、中武)

訪問看護ステーションの目的

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供するために関係機関の連携を推進するため。



サービス提供地域

坂東市（古河、坂東医療圏）

特徴

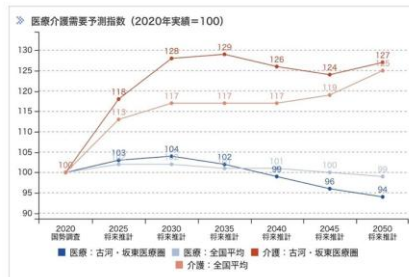


人口：51,533人



世帯数：22,555人

高齢化率：32.0%（2025年国税調査）



なぜこの地域にこの訪問看護ステーションが必要と考えたのか？

坂東市は、茨城県や全国と比較して医療機関数や病床数が限られており、特に療養病床が少ない。また、急性期病床に比べて慢性期を支える病床も少ない。一方で高齢者の割合が高く、心疾患や糖尿病などの慢性疾患を抱えながら生活する人も多いと考えられる。そのため、病院での治療だけでなく、住み慣れた自宅で継続的に療養できる環境を整えることが重要である。訪問看護では、健康状態の観察や服薬管理、日常生活の支援を行い、状態が悪化した際には医療機関と連携して対応する。また、本人が自宅での看取りを希望する場合には、家族とともに在宅での療養生活を支える。

スタッフの人数（構成）

管理者(看護師):1名

看護職員:5名(常勤3名+非常勤2名)

理学療法士:1名

作業療法士:1名

事務職員:1名



提供したいサービス内容

- ・ 病状の観察と管理
- ・ バイタル測定
- ・ 医師の指示によって行う医療処置の継続
- ・ 服薬の管理、指導
- ・ 床ずれ予防
- ・ 在宅でのリハビリテーション
- ・ 認知症ケア



対象の利用者

慢性期の患者（介護度;比較的軽～中）

特に糖尿病と心疾患

疾患の例

- ・ パーキンソン病
- ・ 心不全
- ・ 糖尿病
- ・ 脳出血
- ・ 脳梗塞
- ・ 慢性期呼吸器疾患



運営の工夫・特色のあるサービス

- ・古河・坂東医療圏は、急性期病床が充実しているため、在宅ケアを受けている期間に病状が急変しても対応がとりやすい。

- ・糖尿病内科の医師が少ない→訪問看護が日常生活の中で血糖管理
服薬・食事・合併症予防を支援

- ・坂東市の要介護者では心臓病が約6割と高い

- 医師だけでなく、訪問看護師が定期的に状態観察

- 悪化兆候を早期に発見

- 地域の病院と連携して重症化・再入院を予防

- 医師による診療を補いながら、日常生活の中で継続的な観察・療養支援を行う



PR

少子高齢化が進んでいくなかで、子ども食堂などの事業が幅広く展開されている一方で、これまで日本のために多くの苦労を労うためにみなさんからの支援が必要です！！

みなさんの支援をお待ちしております！

